

第24回「整形・災害外科 優秀論文賞」のお知らせ

本誌編集委員会では、昨年一年間の本誌に掲載された投稿論文（論究・臨床・手術・経験・症例欄等掲載論文）を対象に優秀論文の選考を行ってまいりましたが、この度、下記の論文が小誌における2019年（整形・災害外科 第62巻）の優秀論文に決定いたしました。

**幼児期における臼蓋荷重面硬化像（sourcil）を指標とした
寛骨臼発育予測**

村上真慧ほか（筑波大学附属病院，整形外科）
〔整・災外 62：197—200，2019〕（2号）

超音波ガイド下頸部神経根ブロックは本当に安全か？

—安全に実施するための神経根周囲の血管評価—
村田鎮優ほか（和歌山県立医科大学，整形外科）
〔整・災外 62：1527—1532，2019〕（12号）

選者評

2019年の優秀論文賞は村上真慧先生の「幼児期における臼蓋荷重面硬化像（sourcil）を指標とした寛骨臼発育予測」と、村田鎮優先生の「超音波ガイド下頸部神経根ブロックは本当に安全か？—安全に実施するための神経根周囲の血管評価—」に決定した。優秀論文賞の選考は本誌編集主幹の投票による。オンラインでの投票であり事前の情報交換もないが、結果的にはこの2論文に投票が集中した。おそらく、この2論文が編集主幹全員が本誌に託す漠然とした願いに合致していたためであろう。

本誌の役割は高度な臨床研究や基礎研究の成果を報告する場を提供することではなく、実用的で明日の診療にすぐに役立つ身近な情報や、萌芽的な研究を披露する場を与えることであり、また研究のヒントとなる情報を読みやすい形で提供することだと思う。

すべての臨床医が欲するものであり、知ることの難しい情報として“長期的予測”と“技術的限界周辺に潜む課題”がある。2論文はそれぞれ“幼児期における寛骨臼発育予測”と“高周波プローブでの描出が微妙になる頸部神経根への治療介入”をテーマとして、ここに果敢に挑んだものであり、いずれも明確な結論には到達していないが、われわれに注意を喚起し、新たな研究へのヒントを与えてくれた。

受賞のことば

この度は第24回優秀論文賞に選出していただき大変光栄に存じます。

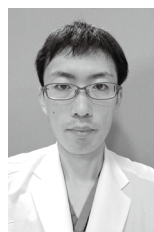
發育性股関節形成不全の治療後に残存した臼蓋形成不全に対する手術適応を決める上で、寛骨臼發育をより正確に予測する方法に関して調査しました。

過去に報告された臼蓋荷重面硬化像(sourcil)を臼蓋外側縁の指標とする refined CE 角と従来の classical CE 角の計測値の差が大きい症例は、将来の寛骨臼發育を予測することは困難であることが考えられました。

今後も、研究心をもって臨床業務に励み、患者様にとってより良い治療が受けられるように日々切磋琢磨していきたいと思ひます。

本研究は、塚越祐太先生の発想、論文作成のご指導によりこのような形にまとめることができました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

村上真慧（筑波大学附属病院，整形外科）



この度は第24回「整形・災害外科 優秀論文賞」に選出していただき大変光栄に存じます。

近年の超音波装置の発達に伴い、超音波ガイド下で各種医療行為を安全、且つ正確に実施することが可能となりました。

われわれは、日常診療の中で超音波ガイド下頸部神経根ブロックを実施していますが、忙しい外来診療の中で、より安全に実施することを目的として、標的神経根周囲、針刺入経路の血管存在リスクを調査しました。

C7 神経根は C5, 6 と比較し、標的神経根周囲、針刺入経路の血管存在リスクが高いため、より注意が必要であることが明らかとなりました。

本研究の結果を踏まえ、血管誤穿刺を予防し、安全にブロックを実施するためにカラードプラによる確認を併用しながら実施したいと思ひます。

本研究は、岩崎 博先生の発想、論文作成のご指導によりこのような形にまとめることができました。この場をお借りして心より深謝申し上げます。

村田鎮優（和歌山県立医科大学医学部，整形外科科学講座）



優秀論文の筆頭執筆者には、賞状ならびに副賞として金一封・記念品を贈呈いたします。

本誌編集委員会では今後も継続的に各年毎の掲載投稿論文を対象に「整形・災害外科 優秀論文賞」の選考を行ってまいります。読者皆様の活発な研究発表の場として、小誌を存分にご活用ください。

（整形・災害外科 編集室）